

## 四旬節第三主日 (2026年3月8日)

※礼拝中に起立の部分がありますが、お体の悪い方はご無理をなさらず、着席のままで結構です。

### 開会の部

前 奏

初めの歌 ♪191 “主キリスト・イエスよ” (1～4 節)

み名による祝福～罪の告白～ゆるしの祈願 式文1ページ

詩編交読 詩編95編

※別紙をご覧ください。

グロリア パトリ / キリエ 式文2ページ

(※四旬節の期間、グロリアは歌いません。)

### みことばの部

祝福の挨拶 式文4ページ

### 主日の祈り

憐れみ深い神様。いのちの水の泉であるあなたは、私たちの渇きを癒し、罪を洗い清めてくださいます。私たちにいつもこの水を与えてください。御子から溢れ出る真理の井戸から飲むことができるよう私たちを導いてください。

あなたと聖霊とともにただ独りの神、永遠の支配者、御子、主イエス・キリストによって祈ります。 アーメン

第1朗読日課 出エジプト記 17:1～7 (旧約 122 頁)  
第2朗読日課 ローマの信徒への手紙 5:1～11 (新約 279 頁)  
詠 唱 式文 5 ページ  
福音書の朗読 ヨハネによる福音書 4:16～30 (新約 169 頁)  
みことばの歌 ♪350 I “わがたましいを” (1～4 節)  
説 教 『霊と真理による礼拝』 高野公雄師 (動画)  
信仰の告白 使徒信条 式文6ページ

### 奉献の部

祝福の挨拶 式文6ページ

奉献(献金) ※ 神への感謝です。ご用意のない方も感謝の心をささげてください。

奉献唱～奉献の祈り 式文7ページ

主の祈り 式文8ページ

### 派遣の部

祝福の挨拶～ヌンク・デミティス 式文9ページ

教会の祈り 山野道子 式文10ページ

祝 福

終わりの歌 ♪ 73 “主はわが隠れ家” (1～3 節)

後 奏

日本ルーテル教団 飯能ルーテル教会  
責任教職 高野公雄牧師

〒357-0033 埼玉県飯能市八幡町 20-9  
電話/Fax 042-972-5774

Mail: [nrkhanno1517@gmail.com](mailto:nrkhanno1517@gmail.com) HP: <https://kirakira2020.jp/>  
Facebook: [www.facebook.com/飯能ルーテル教会](https://www.facebook.com/飯能ルーテル教会)

詩編 95編

主しゅに向むかって喜よろこび歌うたおう。救すくいの岩いわに向むかって喜よろこびの叫さけびをあげよう。

み前まえに進すすみ、感かん謝しゃをささげ、楽がくの音ねに合あわせて喜よろこびの叫さけびをあげよう。

主しゅは大おおなる神かみ。

すべてを越こえて大おおなる王おう。

深ふかい地ちの底そこもまたみ手ての内うちにあり、山やま々やまの頂いたきも主しゅのもの。海うみも主しゅのもの、

それを造つくられたのは主しゅ。陸りくもまた、み手てによつて形かたちづくられた。

わたしたちを造つくられた方かた、主しゅのみ前まえにひざまずこう。

共ともにひれ伏ふし、主しゅを拜おがもう。

主しゅはわたしたちの神かみ、わたしたちは主しゅの民たみ。

わたしたちは主しゅに養やしなわれる群むれ、み手ての内うちにある羊ひつじ。

今日きょうこそ、主しゅの声こえに聞ききたが従したがわなければならない。

「あの日ひ、荒あれ野ののメりバやマサでしたように、心こころを頑かたくなにしてはならない。

あとき、あなたたちの先せん祖ぞはわたしを試こころみた。

わたしおの業わざを見みながら、わたしためを試ためた。

四よん十じゅう年ねんの間あいだ、わたしはそその世せ代だいをいとい、

心こころの迷まよう民たみと呼よんだ。

彼かれらはわたしみちの道しを知しろうとしなかつた。

わたしは怒いかり、彼かれらをわたしの憩いこいの地ちに入いれないと誓ちかった。」

詩編 95編

主しゅに向むかって喜よろこび歌うたおう。救すくいの岩いわに向むかって喜よろこびの叫さけびをあげよう。

み前まえに進すすみ、感かん謝しゃをささげ、楽がくの音ねに合あわせて喜よろこびの叫さけびをあげよう。

主しゅは大おおなる神かみ。

すべてを越こえて大おおなる王おう。

深ふかい地ちの底そこもまたみ手ての内うちにあり、山やま々やまの頂いたきも主しゅのもの。海うみも主しゅのもの、

それを造つくられたのは主しゅ。陸りくもまた、み手てによつて形かたちづくられた。

わたしたちを造つくられた方かた、主しゅのみ前まえにひざまずこう。

共ともにひれ伏ふし、主しゅを拜おがもう。

主しゅはわたしたちの神かみ、わたしたちは主しゅの民たみ。

わたしたちは主しゅに養やしなわれる群むれ、み手ての内うちにある羊ひつじ。

今日きょうこそ、主しゅの声こえに聞ききたが従したがわなければならない。

「あの日ひ、荒あれ野ののメりバやマサでしたように、心こころを頑かたくなにしてはならない。

あとき、あなたたちの先せん祖ぞはわたしを試こころみた。

わたしおの業わざを見みながら、わたしためを試ためた。

四よん十じゅう年ねんの間あいだ、わたしはそその世せ代だいをいとい、

心こころの迷まよう民たみと呼よんだ。

彼かれらはわたしみちの道しを知しろうとしなかつた。

わたしは怒いかり、彼かれらをわたしの憩いこいの地ちに入いれないと誓ちかった。」